

専門部会報告

〔 第4期産業振興計画の取り組みに対する評価と意見 〕

1	農業部会	1
2	林業部会	2
3	水産部会	3
4	商工業部会	4
5	観光部会	5

<農業分野>

1 専門部会での評価と主な意見

令和4年度の進捗状況及び令和5年度の強化のポイントについては、原案どおり了承を得られた。

また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のとおり意見・要望等が出された。

<主な意見>

- ①農業産出額が目標額に達していないのは、コロナ禍のみが要因ではない。生産資材高騰など所得の面で農家の生産意欲の減退について危惧している。離農した方の中古ハウスを有効活用する取り組みや生産力の拡大が大事ではないか。
- ②東京から見た高知は、園芸品の大事な供給県である。コロナ禍もあり消費の仕方が変わってきており、家族構成に合わせたロットを求めている。また、家庭での消費は、調理から冷凍食品等の加工食品の活用にニーズが移ってきている。全品目に消費者のニーズに合わせた商品作りが必要。商品をいかに消費者に届けていくか販売市場としての大事な役割だと思う。産地の皆さんと一緒に考えていきたい。
- ③有機農業の露地栽培については、栽培技術の向上や販路の開拓・拡大など課題も多く、有機農業の推進の目標について、ハードルが高いのではないかと感じる。
- ④先日、農大で実施したドローンやアシストスーツの勉強会は盛況であったと聞いている。都合がつかなくて参加できなかった人のためにもまた是非開催してほしい。

<林業分野>

1 専門部会での評価と主な意見

令和5年度の取り組みの強化のポイント等については、原案どおり了承された。

事務局から説明した令和5年度の取り組みの強化ポイント等に、部会員から以下のとおり意見・要望等が出された。

<主な意見>

- ①森林 GIS などの森林情報に関する技術を現場で活用できる人材の育成が林業大学校には求められている。また、事業体においても森林情報を活用することは、体質改善につながるため、研修などを通じた指導をお願いしたい。
- ②担い手の確保に関して、就業ガイド冊子を見る限り給与が低い。若い人が林業に就業しない現状を変えなければならない。
- ③林業就業者のうち4割が60歳以上とすれば、林業大学校からの新規就業に加えて、それ以外から就業に繋げていくための対策が必要ではないか。
- ④木質バイオマスボイラーの新規導入・更新を進めているとのことだが、初期投資は補助金で支援できても、ランニングコストが高いため維持していくことが厳しいのではないか。
- ⑤再造林率は目標の7割に対して現状は4割。この3割差の炭素固定量は大きいので、しっかりと目標達成に向けて取り組んでいただきたい。
- ⑥再造林の促進に向けては路網整備も再造林推進プランに位置づける必要がある。その一方で、あまりに強度な路網開設は林地の荒廃を招くという危惧もあるため、林業適地の絞り込みでは検討が必要。
- ⑦再造林については、林業適地なのに再造林率が上がらないということにならないようメリハリのついた対応が必要。
- ⑧シカ等による食害など獣害対策についても再造林推進プランへの記載が必要。
- ⑨再造林には課題が多くあることは承知している。将来的にリカバリーできる見通しがあれば、初期投資もある程度は納得できるのではないか。林業が夢を見ることのできる産業となるよう力を合わせていきたい。

<水産業分野>

1 専門部会での評価と主な意見

令和4年度の進捗状況及び令和5年度の強化のポイントについては、原案どおり了承を得られた。

また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のとおり意見・要望等が出された。

<主な意見>

- ①魚の資源を回復させていくために、漁場をどう新たに構築していくのか。黒潮牧場15基体制は維持されているが、沈設魚礁は休止されている。漁業者が生活していけるような水揚げを得るために、漁場の確保の検討も必要ではないか。
- ②定置網漁業については、法人化されている経営体は人材が確保されているが、法人化できていない経営体は人材不足の懸念がある。将来に向けた計画作りを県に支援してもらうのが一番良いと思うので、県が地域に足を運んで、地元の方々と膝をつき合わせて、取り組みを進めていただきたい。
- ③高知県のような資本力の弱い県は、様々なことに取り組むのではなく、ターゲットを絞って外商(国内・輸出)に取り組むべき。また、環境の変化等によって、高知県で水揚げされる魚の量や単価が以前と比べて変わってきているので、分析をしっかりと環境の変化に応じた対応をすべき。
- ④高知県の魚を外商していく際、魚を食べていただく県外の方に、次は高知に行って食べてみたいと思っただけのような取り組みを進めてほしい。
- ⑤新規漁業就業者の研修修了後の定着率はどの程度か。漁業者を増やす取り組みは必要だが、定着していない場合はどこに問題があるのか分析・検証する必要があるのではないか。

<商工業分野>

1 専門部会での評価と主な意見

令和4年度の進捗状況、令和5年度の強化のポイント、連携テーマの取り組みについては、事務局案が原案どおり了承。その際、事務局からの説明に対し、部会員から以下のような意見・要望等が出された。

<主な意見>

- ① 企業の事業戦略は、製品開発、生産性の向上、人材の確保など、事業を継続していく上での全ての基本となるものである。事業戦略の策定・見直しをする中で、本質的な課題を把握し、対策を検討することが重要。
- ② デジタル化の推進については、個社ごとのデジタル化の取組内容を客観的に評価の上、成功事例を横展開していけばデジタル化の取組が広がっていくのではないかと。積極的な情報提供をお願いしたい。
- ③ 中山間地域の空き店舗活用について、売れる商品・サービスを持っていないと、空き店舗に出店しても売上は見込めない。売れる商品等を持っている人をいかに出店につなげていけるかが重要。
- ④ 中山間地域への企業誘致や担い手の確保の面では、中山間地域においては「地域おこし協力隊」が地域の核になる人材であるということを明確に訴えられれば強みとなる。また、「地域おこし協力隊」と地元の方々との新しいパートナーシップが構築されることにより、事業の展開がスムーズになり、成果も見えやすくなるのではないかと。
- ⑤ ある県内企業で働いていた外国人労働者が県外企業に転職した後、「県内企業の方々が優しくて良い。」という理由で戻ってきたという話を聞いた。今、働いている人たちが大切にすることで、賃金以外の魅力として訴求できるのではないかと。

<観光分野>

専門部会での評価と主な意見

令和5年度の取り組みの強化のポイント等については、原案どおり了承された。
事務局から説明した令和5年度の取り組みの強化ポイント等に、部会員から以下のとおり意見・要望等が出された。

<連続テレビ小説を生かした更なる観光振興>

- ①「らんまん」効果を将来に繋げるためには、レガシーをしっかりと作る必要がある。
- ②外国人観光客を想定した牧野関係のプロモーションをしっかりと実施すべき。

<インバウンドの推進>

- ③高知県は、中山間支援や集落活動センターのような、地域ビジネスのモデルがあるので、地方創生への感度が高い台湾などに、観光商品としても売り込んで行くべき。
- ④高知といえば〇〇といったように、具体的な強いコンテンツを絞っていくことが必要である。その点、釣りや川が、良いと考える。

<滞在型観光の一層の推進について>

- ⑤地域ごとの魅力を上手くPRすれば、滞在型観光を進めることができると考える。そのためには、人の魅力を発信することが大切。
- ⑥デジタルデータの活用にあたり、県内のIT人材など、専門性の高い人材の活用を検討すべきである。

<その他>

- ⑦高知県は、観光地がコンパクトにまとまっている。そのため、1日で、歴史、自然、食を全てをバリューセットとして楽しむことができる利点を打ち出すのも1つの方法であると考えます。
- ⑧今後、人に着目して広報するにあたり、それぞれの観光地で、「そこに行けば、その人に会える。」といったプロモーションが大切ではないかと考える。